

## かわさき区の宝物シート

宝物No.
17-6

# かわさきだいきぼたいようこうはつでんしょ(めがそーらーはつでん) 川崎大規模太陽光発電所(メガソーラー発電)

エリア	大師～田島地区	シーズン	通年
	浮島、扇島	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代的文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



(浮島太陽光発電所)

所在地	川崎区浮島町、扇島
問い合わせ	かわさきエコ暮らし未来館 (川崎区浮島町509-1浮島処理センター内)
TEL	044-223-8869
FAX	044-287-9604
E-mail	
URL	<a href="http://eco-miraikan.jp/">http://eco-miraikan.jp/</a> (かわさきエコ暮らし未来館)
交通	かわさきエコ暮らし未来館 JR川崎駅より市営・臨港バス「03系統浮島バスターミナル行き」に乗り、終点「浮島バスターミナル」下車徒歩約10分



### 基礎情報

- 川崎大規模太陽光発電所は、浮島町及び扇島に太陽光発電所を設置する事業である。これは、川崎市と東京電力の共同事業で、浮島では川崎市の所有地約11ヘクタールの10ヘクタール、扇島では東京電力の所有地約23ヘクタールのうち20ヘクタールの太陽光パネルが敷き詰められている。それぞれ出力は約7,000キロワット、約13,000キロワットであり、合計出力2万キロワットの太陽光発電所である。平成22年(2010)4月に現地着工し、浮島は平成23年(2011)8月10日運転開始。扇島は同年12月に運転開始している。
- この太陽光発電の稼働により、一般家庭の約5,900軒分に相当する約2,100万キロワット時の年間使用電力量の発電が見込まれており、それによるCO2排出量削減効果は一般家庭約1,700軒分に相当する年間約8,900トンとなっている。
- 浮島太陽光発電所に隣接する市浮島処理センター内に、太陽光発電などについて、体験的に学べる環境学習施設「かわさきエコ暮らし未来館」が、平成23年(2011)8月6日に開館しており、隣の施設の展望スペースからは浮島太陽光発電所の眺望もきる(予約制)。

### 由来・エピソード

- メガソーラー発電とは、出力1,000キロワット(=1メガワット)程度以上の規模を有する太陽光発電に対する総称。設置には相応の敷地面積が必要であり、目安として1メガワットあたり1.5~2ヘクタール程度とされている。
- ヨーロッパを中心に海外ではメガソーラー発電所の建設が活発化している。国内でも、平成20年(2008)9月に電気事業連合会により「2020年度までに電力10社合計で約30地点・14万キロワットを導入」という『メガソーラー導入計画』が発表された。これに基づき、東京電力、関西電力、中部電力など各電力会社は、これまでに各地で合計9万キロワット以上の計画を発表している。川崎区浮島町及び扇島で平成23年度運転開始のメガソーラー発電もこれに含まれ、大阪府堺市ではすでに関西電力によりメガソーラー発電の運転が開始されている。
- 日本のメガソーラーも太陽光発電ビジネスの一つとして成長することが期待されており、低炭素社会の実現に向けた取組として注目を集めている。
- ただし、太陽光をはじめとする再生可能エネルギーについては純国産で発電中にCO2を排出しないが、高コスト、天候に左右され出力が安定しない、エネルギー密度が低いなどの課題もある。

### 補足・その他

- 川崎市では、現在「カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略」として地球温暖化対策を進めており、公共施設への太陽光発電設備の設置や住宅用太陽光発電設備の設置補助など、低炭素社会の実現に向け、先導的な役割を担うべく取り組みを行っている。

### 関連シート

- (28-1) 港湾施設(埋立地)
- (28-2) 川崎港・運河